平成30年度、令和元年度 青山台留守家庭児童育成室の検証結果について

令和３年６月
吹田市教育委員会
地域教育部 放課後子ども育成室

吹田市立青山台留守家庭児童育成室「ひまわり学級」（以下「青山台育成室」とする。）については、平成28年４月から社会福祉法人大阪キリスト教女子青年福祉会に業務委託している。当初は平成31年３月までの３年間の委託契約で、委託業務の実施状況を評価する附属機関での審議において、事業者による事業運営が良好であるとの結果を得て、引き続き平成31年４月から令和６年３月までの５年間の委託契約を締結している。

児童福祉法において、事業に必要な水準を確保するため、市町村による事業者への調査や命令等が定められており、運営業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下「育成室」とする。）の運営状況に関して、放課後子ども育成室による検証を行い報告するものである。

～検証方法～
１　放課後子ども育成室職員［担当事務職員、スーパーバイザー］による現地視察
２　保護者へのアンケート：委託初年度 年間３回、２年目以降 年間１～２回
３　事業者への聞き取り
４　チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

１　入室児童数について

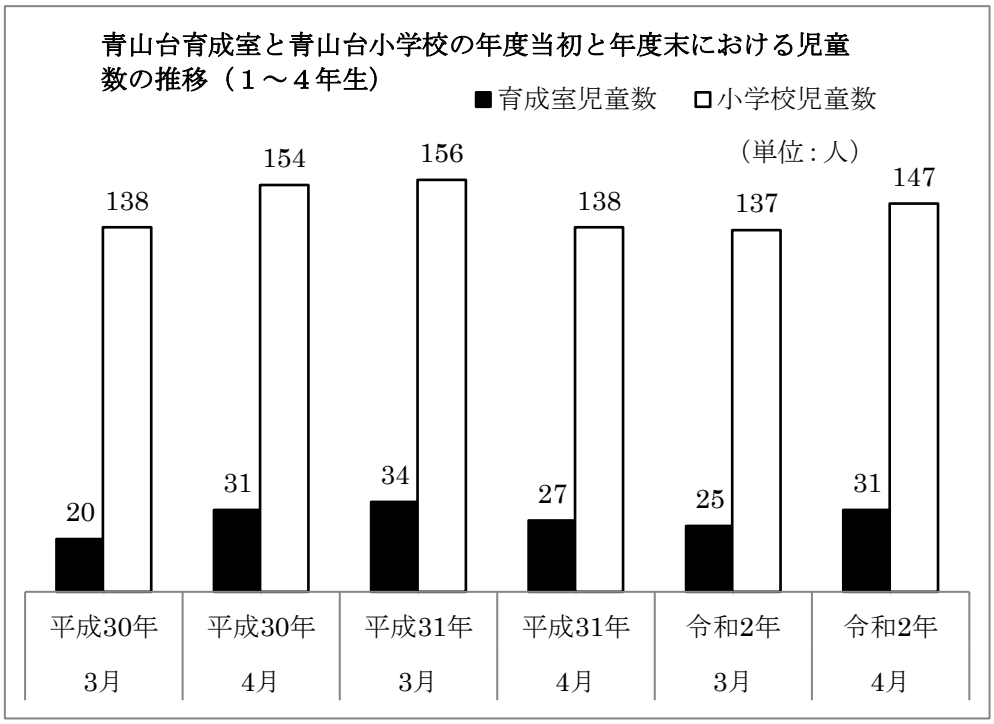
青山台育成室については、平成31年４月時点で27人在室（学年内訳、１年：６人、２年：12人、３年：６人、４年：３人）しており、うち配慮を要する児童（障がいを有する児童）が２名在籍している。１教室で運営しており、小学校の児童数規模と同様、市内育成室の中で児童数が最も少ない育成室となっている。

入室児童数について、小学校児童数の増減と比例して、平成30年度当初は前年度比34.8％（8人）増加し、令和元年度当初は前年度比12.9％（4人）減少している。実人数が少ないことから、数人増減すると割合が大きく変動してしまうため、年次比較する際は留意しておく必要がある。

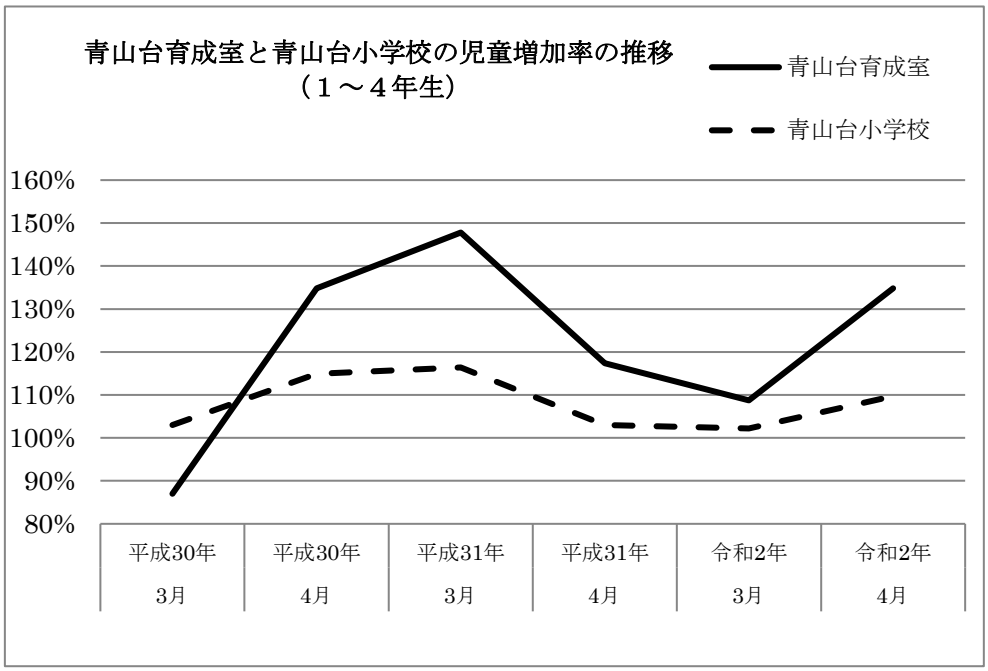
なお、令和元年度当初の入室児童数が減少した要因として、平成31年３月時点で在室していた４年生９人が卒室したことが最も影響していると考えられる。

【表1・2】

【表 1】

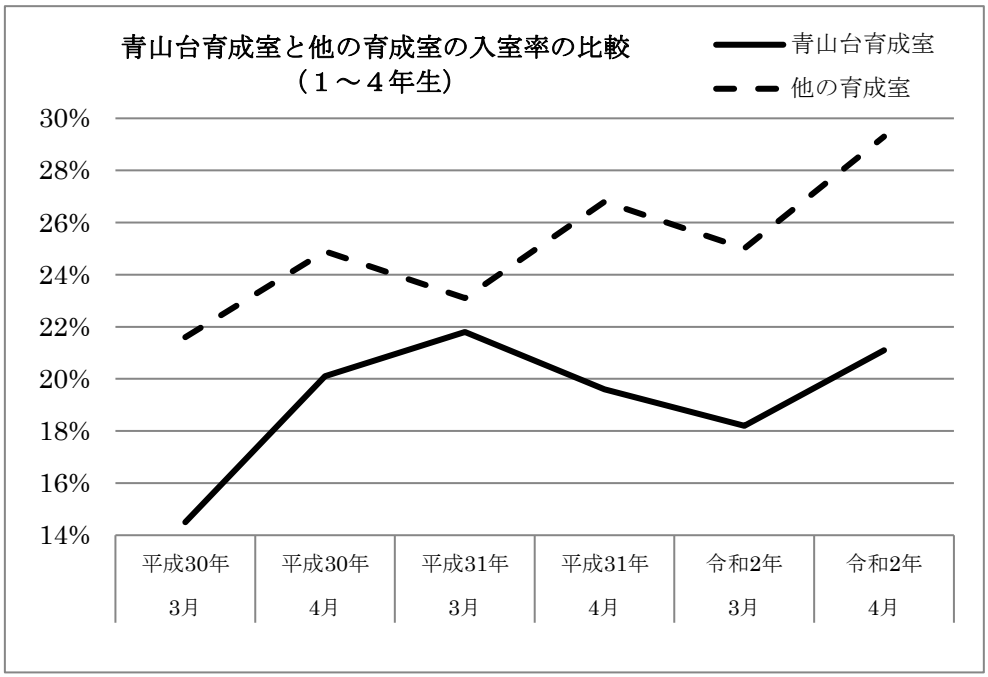


【表 2】



青山台育成室の平成 30 年度から令和元年度までの入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）は【表 3】のとおりとなっている。 後述の保護者アンケートの集計結果では、児童、保護者の満足度はどちらも高いにもかかわらず、入室率が他の育成室と比べて低くなっている。要因として、小学校児童数の１～３年生の児童数の比率が他の小学校と比較して低いことも考えられるが、はっきりとした根拠はなく、育成室の運営委託による影響はないか今後も研究していく必要がある。

【表 3】



２　保育内容について

（１）日常における保育の取り組みについて

青山台育成室の日常の保育の取り組みとしては、仕様書に沿って行われており、児童の健全育成への貢献は十分であると認められる。理由としては以下を挙げることができる。

ア　児童の出欠管理、健康状態について、日常的に把握をしっかりしている

通常の出欠については、連絡帳にカレンダーを貼って出欠スタンプで出欠確認をしている。また、カレンダーを検温記録にも活用し、登室管理に加えて健康状態も日常的に把握をしっかりできている。

イ　学級だより等で児童の様子を保護者へ伝えている

学級だよりを毎月発行しており、学級の取組や今後の予定に加えて、カラーで写真を入れて学級の雰囲気が保護者に伝わる工夫をしている。また、提供するおやつメニューについても毎月記載しており、保護者への情報発信はしっかり行えている。

ウ　班活動や遊びを通じた児童の集団作りを行っている

班長は立候補で決め、班長会議で構成員を決めている。終わりの会の進行や掃除活動も班長を中心に行っており、場面転換時においても班長を中心に集合してから行動することによってスムーズな移動が行えている。基本的には子供たちで関係を作っていけるように見守っており、新しいルールの決定や、ルールを変更するときも子ども同士話し合って決めている。遊びに関しては、けん玉や一輪車など、自分の好きなことに取り組み、得意な児童が中心となってクラブを作って活動し、その

活動について発表できる場を設けることで児童の自信にも繋がっている。

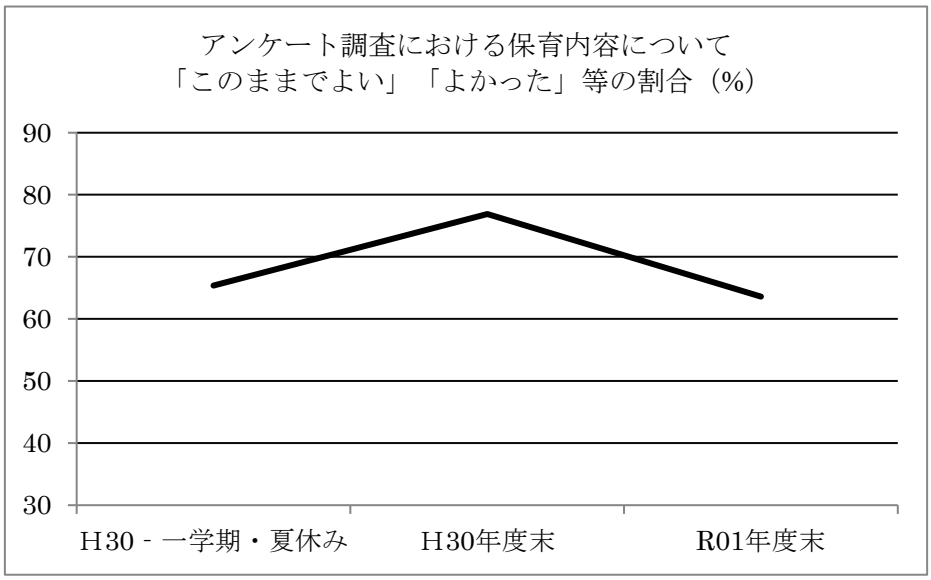
終わりの会は、班ごとに分かれるのではなく全体で円になって座って、日替わりでけん玉やこま、フラフープ等の発表の場としており、学級全体がまとまった集団として楽しい雰囲気が伝わってくる。

（２）保育内容に対する保護者の意見について

保育内容に対する保護者の意見については、平成 30 年度の２回と令和元年度の１回の合計３回のアンケートの調査結果から、回答があった過半数の保護者は「このままでよい」と回答をしており、令和元年度末には約 64%の保護者が「このままでよい」と回答している。保護者からの評価水準が一定して高いことが読み取れる。なお、この保護者アンケートの全体回答数は 10 人程度であることから、１～２人の増減で割合が大きく変動してしまうため、年次比較する際は留意しておく必要がある。

平成 30 年度一学期・夏休みのアンケートにおいて「社会のルールやマナー等の社会的な規範を高める活動をするべきである。」といった意見が令和元年度末のアンケートではなくなっており、改善の努力をしていることが読み取れる。一方で、「もっと指導員が中心となり遊びを組み立てていくべきである。」という意見は令和元年度末のアンケートでも残っており、平成 30 年度末アンケートの自由記述に見られた「長期休み中は行事が少なく退屈していた。部屋遊びを工夫してもらいたい。」という意見もあることから、今後更なる工夫、改善を検討していってもらいたい。

【表 4】



（３）イベント（季節ごとのイベントや事業者独自の活動等）について

お誕生会は毎月開催しており、そのときの様子を毎月おたよりで紹介している。11 月に開催したひまわりまつりでは、近隣の保育所等の園児を招待し、班ごとに用意した演目を役割分担しながら、ときには協力して成し遂げることで達成感を得ることができ、また、異学年との交流も活発に見られた。

事業者独自の活動としては、留学生とのふれあい、落語教室を通して異文化や伝統

文化を体験する機会を設けている。また、委託事業者である法人が運営するこども館を活用して、ボランティアによる読み聞かせやハンドベルの演奏体験など幅広いあそびの場を提供している。

（４）おやつの提供について

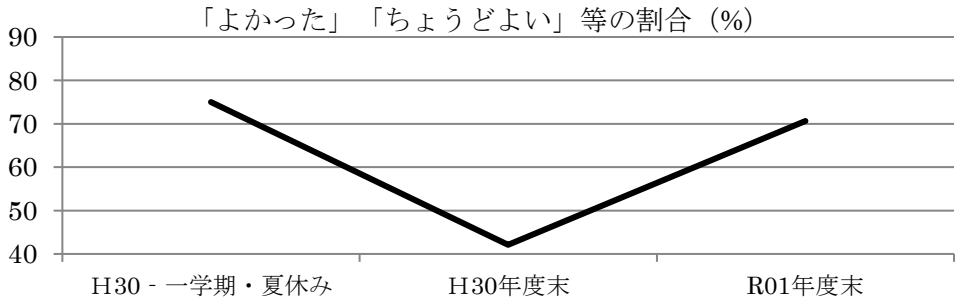
青山台育成室においては、おやつのメニューをアレルギー物質も含めておたよりに毎月掲載することによって、事前に保護者へ情報提供している。また、産地や添加物への配慮だけでなく、自然食品を提供するなど、安心安全なおやつの提供を心掛けていることが窺える。おやつの好みに偏りがあり、あまり食べられない児童への対応として、複数のおやつの組み合わせやおかわりで調整するなど、補食としての役割を十分理解しおやつを提供している。

（５）おやつの提供に関する保護者の意見について

アンケートの回答では、【表 5】のとおり、おやつに関して「よかった」や「ちょうどよい」等の肯定的な意見が、平成 30 年度一学期・夏休みのアンケートで 70%以上、令和元年度末についても同様に 70%以上と高い評価を得ている。平成 30 年度末で 40%台に減少しているが、平成 30 年度末のアンケートから、回答の選択肢をより細分化し、従来の 5 択から 12 択にした （自由記述回答を含む）ことで、より詳細な意見が聞き取れるアンケートに変更したことも影響していると思われる。

令和元年度末の回答結果を見ると、おやつの量に関して「量はちょうどよかった（29.4%[5 人]）」に対し、「量は少なかった（17.6%[3 人]）」という回答があった。おやつの量が少ないという意見は平成 30 年度末のアンケートにおいても、「量は少なかった（36.8%[7 人]）」という回答があり、それから改善は図られているものの、保護者に耳を傾けて丁寧に意見をくみ取りながら、栄養価や腹持ち等の補食の観点、種類のバランス等の様々な要素を考慮し、より良い運用方法を継続して検討し、実践していってもらいたい。

【表 5】



※「H30年度末」「R１年度末」アンケートについては、肯定的な回答「ア」「ウ」「エ」「キ」の合計の割合としている。

３　指導員について

（１）指導員の配置について

青山台育成室の指導員の配置については、１教室での運営であるため、教室に配置する指導員が２名となっている。また、配慮を要する児童に対する加配が２名必要であるため、１日当たり４名の指導員の配置が必要であるが、よりきめ細やかな保育のために１名多い５名の指導員を配置しており、欠勤等が生じる場合も柔軟な対応ができる体制であり、しっかりと配置できていた。保有資格として、正規雇用の指導員は保育士または教諭の免許及び放課後児童支援員の資格を保有しており、非正規雇用の指導員についても教諭の免許または放課後児童支援員の資格を保有している。

指導員間の連携について、連絡ノートを作成して欠席や連絡事項を記録しており、毎日の登室前ミーティングで情報共有している。また、週に１度の会議では、曜日を変えて実施することで指導員全員が参加できるように工夫しており、参加できなかった場合でも、記録で情報伝達を行っている。保育中においても、必要に応じて携帯電話で連絡を取り合うなど、常に指導員間の情報共有を大事にしていると感じる。

（２）指導員の児童との関わりについて

現在の委託事業者は、児童が登室すると「おかえり」の声かけを必ず行っている。児童とのコミュニケーションを通して、児童の表情やしぐさから一人ひとりの状態を確認したり、児童の話に耳を傾け、興味や関心、喜びを共有し児童の気持ちに寄り添えるように関わっており、指導員と児童との信頼関係がしっかりと構築されている姿も見てとれる。

配慮を要する児童との関わりについては、その日担当する指導員が見守るとともに行動記録を行い、指導員間で情報共有している。また、指導員が常に遊びの相手をするのではなく、他の児童と遊べているときは少し離れたところから見守るなど子ども同士の関係も大事にして保育していることが窺える。

（３）指導員に関する保護者からの意見について

令和元年度年間を通じてのアンケートにおいて、指導員についての設問がある。この設問は複数回答可としており、指導員に対して保護者がどのような考えを持っているかを聞く設問となっている。【表 6】

回答が多かった順に上位 3 つを挙げると以下のとおりとなっている。

１位「指導員は児童の輪に入り、積極的に児童と関わりを持っていた」
・・・22.2%［ 6 人］

２位「清掃や整理整頓など、育成室をきれいに保つために努力していると感じた」
・・・18.5%［ 5 人］

３位「連絡帳や電話などを使い、育成室での出来事を保護者に適切に伝えることができていた」　・・・11.1%［ 3 人］

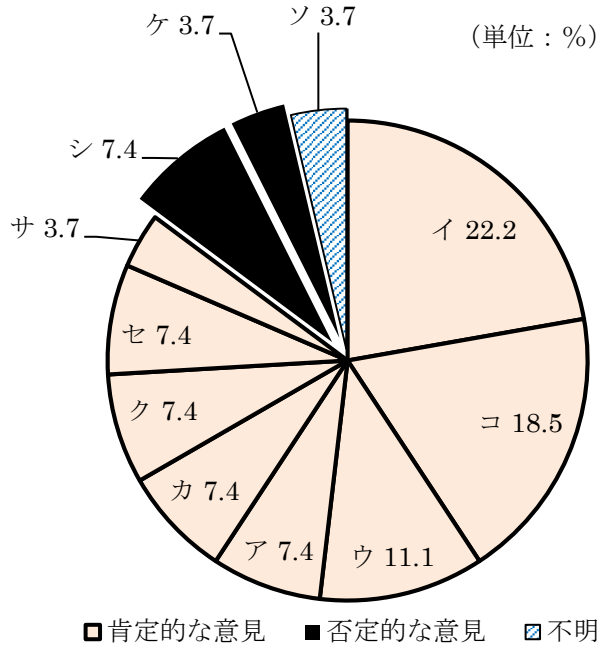
上位の 3 つの回答で全体の約 52%を占めており、さらに指導員に対して肯定的な意見

をすべて含めると、全体の約 85%と高い評価となっている。また、平成 30 年度のアンケートでも肯定的な意見は約 90%と同様に高い評価であったことから、引き続き高い評価を維持していることが分かる。

今後も高い評価を維持できるよう努めるとともに、少数意見ではあるものの、「日常の子ども達の様子を連絡帳や電話でもっと知らせてほしかった」などの反対の意見があるので、現状に満足することなく、更に高い評価が得られるように期待したい。

【表 6】

保護者アンケートにおける指導員の評価に関する回答
※各項目の内容については、別添アンケート結果を参照



4　総合的な評価について

（1）放課後子ども育成室による評価について

放課後子ども育成室職員（担当事務職員、スーパーバイザー）による現地視察及び事業者への聴き取りによる検証による総合的な評価として、青山台育成室の運営については、以下の理由により高く評価することができる。

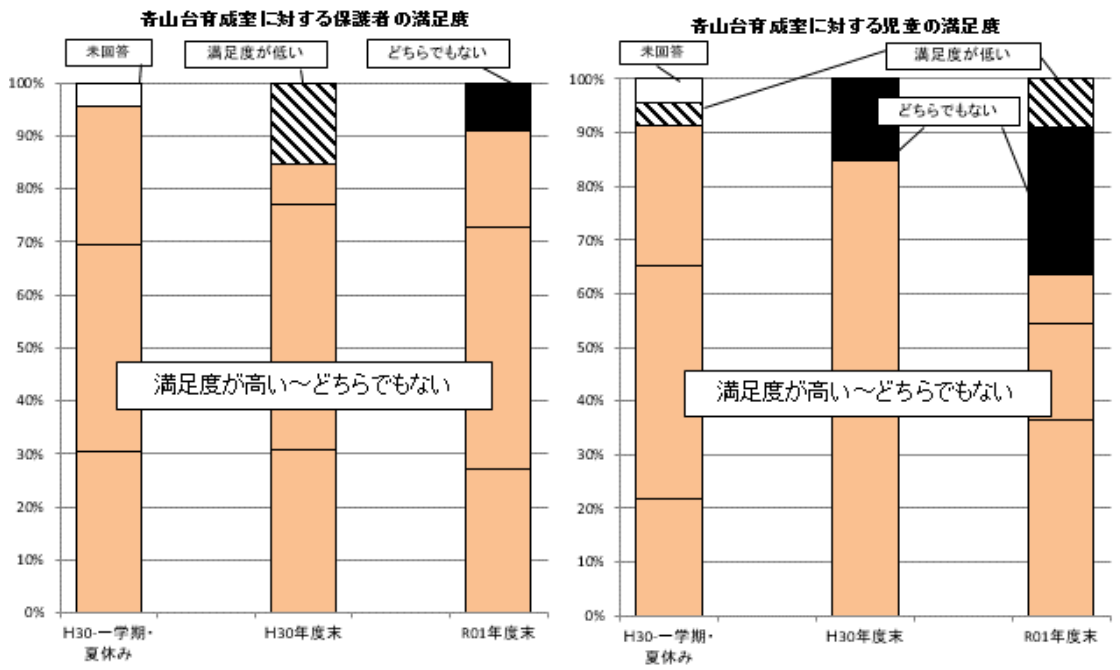
1　育成室では、入室児童が笑顔で楽しく活発に過ごしている。
2　指導員が常に子ども達とコミュニケーションをとっている。
3　連絡事項については、主任指導員、委託事業者、放課後子ども育成室の間で共有が図られており、組織だった運営が行われている。
4　育成室の運営では、直営育成室の取り組みの内容をベースに組み立てられており、新たな取組みは、子どもたちの話し合いなど、児童主体で決めていく姿勢が見られる。

5　保護者との連携として、学期ごとに学級懇談会を開催している。また、ドッジボール大会や卓球大会、茶話会などの保護者参加型の行事も行っており、保護者同士の親睦、指導員と保護者との関係づくりを図っている。

（2）保護者へのアンケートにおける総合的な評価について

これまでの保護者へのアンケートには、「子ども達にとって青山台育成室はどの程度楽しい場所か？」を聞く設問と、「保護者にとって青山台育成室はどの程度満足できるものとなっているか？」を聞く設問を設けている。【表 7】その結果から見える、事業者の運営状況の総合的な評価としては、「保護者や児童からも、概ね高い評価を受けている」と言える。

【表 7】



【表の見方】

	評価が高い						評価が低い	
保護者	とても満足している			どちらでもない			とても不満がある	未回答
児　童	とても楽しい			どちらでもない			とてもつまらない	未回答

5　終わりに

これまでの放課後子ども育成室の職員による視察や保護者へのアンケート等によるい

ろいろな検証、その他小学校をはじめとする関係機関との日々の連携による状況把握の結果、現在の委託事業者は、平成 30 年度から令和元年度にかけて良好な保育や育成室運営が行われていることが確認できた。

アンケートの自由記述欄においても、「放課後に友だちと遊べる場として楽しい」、「延長せずに帰るか聞いても延長したいと言う」、「行かない日を残念に思う発言を家でする」等、子ども達が育成室を楽しんでいる様子が記載された記述を多く見ることができ、また、「安心して預けられる」、「体調の悪い時に連絡、自宅まで送ってもらった」等、保護者が満足している内容の感想が記載された記述も多く見ることができた。子ども達と保護者にとって、現在の育成室は「安心できる、楽しい場所である」との認識が拡がっている。

現在の委託事業者には、今後とも現在の方針を継続し、保護者、学校、放課後子ども育成室としっかり連携を密にした運営を行い、同時に、普段から子ども達と保護者の声に耳を傾けて、改善が必要なところはないかを丁寧に検証しながら、更なる向上を目指してもらいたい。